



2005年11月23日 みんな集まれ!ファミリーひろば(於:淀商業高校)にて/写真提供:原さん

心の子育てネット にしよどがわ代表

はら ひろ み
原 博美さん



(後列中央が原さん)

プロフィール

1960年、広島県生まれ。東京の看護学校卒業後、大阪の大学付属病院に就職。その後、神戸の病院に移り高齢者の医療や訪問看護に従事する。92年、結婚退職を機に大阪市西淀川区へ。93年に第1子、95年に第2子を出産。翌96年、西淀川区で第1号の子育てサークルを発足。2年後には、複数のサークルを結ぶネットワークを立ち上げる。現在ではネットワーク活動のほか、情報誌発行や学校への出張授業など子育て関連事業にも進出。98年からは、看護師として復帰し、介護保険審査委員や高齢者の訪問指導に従事している。

0歳から思春期まで 広がれ!子育てネットワーク

西淀川区の在宅サービスセンター「ふくふく」を主要拠点に活動を続けている子育て支援ネットワークが、「心の子育てネット にしよどがわ」である。ネットワークを形成しているのは、4月に発足10周年を迎える「おててつないで」をはじめ、「ぼよぼよベビー」などと名づけられた13のサークルと、「赤ちゃんひろば」など2つの「ひろば」、ひとつの協力団体(「おもちゃ図書館」)の計16サークルだ。

各サークルは、0歳から就園前親子を対象に季節の行事や公園遊びなどを活動内容とするものや、幼稚園児・小学生の親子を対象に遠足や料理教室などを楽しむものなどがあり、サークルリーダーを中心に自主運営している。「心の子育てネット にしよどがわ」はこれらのサークルをネットワークで結ぶ組織。子育てサークルの経験者がネットワークカーとなり、情報交換や助言を行っている。もちろん行政や地域、他の団体との交流も活発で、そうした活動の中から、年1回のイベント「みんな集まれ!ファミリーひろば」の開催や、フォーラム、

学校授業への講師派遣など幅広い活動を実現している。このネットワークはもちろん、ネットワークの原点となるサークル「おててつないで」を立ち上げた創立メンバーの1人が、原博美さんである。

孤独な子育てから 一歩踏み出し

原さんが子育てに行き詰まったのは、第2子が誕生した以降である。「核家族、マンション住まいのうえ、年子の子育てになって外出もままならず...」。加えて第2子が病気の疑いで約半年間通院を余儀なくされる。強い閉塞感と精神的なダメージに襲われる日々だったが「周囲を見渡しても子育て支援と言えるものがあつたかどうか」と当時を振り返る。

新聞に、「こころの子育てインターネット関西」の旗揚げ講演会の記事が掲載されたのはこの頃だ。子育て最前線の母親と、子育ての専門家で、子育ての輪をつくらうと見出しが躍っていた。「そうだ、子育て支援の集いを、自分達でつくらう」。知人を誘って講演会に参加し、さらにリーダー養成講座を受講。「子育てサークルとは、子どもに何かを学ばせるのではなく、仲間を

作って体験の中で子育てしあっていくもの」と学び、96年4月、正式にサークル「おててつないで」の発足にこぎつけるのである。

発足からまもなく、10周年を迎える。27組でスタートしたサークルも、約260組600人の親子が参加する組織にまで育っている。

10年続けてきて嬉しかったことは「サークルに入ったおかげで、行く場所がたくさん出来て、楽しいときが過ごせたと感謝してもらえたこと」。あえて苦勞を探せば「サークルを継続させるために必要な、人育て」だ。「最近では若いお母さんとの年齢的なギャップを感ずますから(笑)」。

原さんの夢は、「子どもと高齢者が融合して集える場所づくり」である。「それより先に」と力を込めるのが、既存のサークル「幼稚園部会」、「小学生部会」に次ぐ「中高生部会」の新設だ。「これで0歳から思春期までのサークルが完成します。今年中にぜひ実現させたいですね」。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)